

## 会長、副会長報告資料

10月3日（水） 会長、副会長報告

報	2
総会	177

# 2018年4月～2018年9月 活動報告



第177回総会 2018年10月3日(水)  
第24期 日本学術会議会長  
山極 壽一

1

## 24期の活動方針 対話の推進



- 政府との対話(内閣府、文科省や他の省庁)
- 科学者間の対話(科学者委員会)
- 学協会との対話(アンケート、オブザーバー)
- 社会との対話(広報の改善)
- 産業界との対話(政府・産業界連携分科会)
- マスコミとの対話(定例記者懇談会、メディア懇談分科会)
- 海外との対話(他国の学術会議との連携、国際会議の開催、派遣)



# 外部評価有識者からの意見



- 1) 国際学術団体に対して人的な貢献を進めることと、近年国際社会のキーワードになっているSDGs (Sustainable Development Goals) を念頭に置きつつ活動すること
- 2) 地域・分野・世代を超えた活動、とりわけビッグデータの利活用の在り方について、研究の方向性や統計学の人材育成を含めた今後の展望を示すことや、あらゆる分野が関わる取組に対する支援などを行うこと
- 3) 多様な研究の効用や、研究成果を長期的に評価する必要性について、理論的・実証的に分析する必要性
- 4) 提言等を発出した際の国民への浸透具合の確認や、各方面からの反応の分析等、フォローアップの必要性
- 5) 日本学術会議のPRという面を意識して情報発信を強化すること



3

## 24期(2018年4月～2018年9月)の活動



- 特任連携会員の見直し
- 委員会、分科会の新設と活性化
- 分野横断的な課題への取組
- 地方学術会議の開催
- 各種提言の発出
- 夏季部会とシンポジウムの開催
- 広報の見直し
- 国際会議



4

# 24期の活動(1) 会長としての活動



- 1) 総合科学技術・イノベーション会議
  - ・統合イノベーション戦略の策定
  - ・大学改革
  - ・ImPACT、SIP、PRISMの企画、審査
  - ・第6次科学技術基本計画の立案
- 2) 各種会議への参加
- 3) G7サミットに向けての声明を総理へ手交
- 4) 各省庁からの諮問、審議依頼の受理
- 5) インフラメンテナンス大賞の審査、表彰



5

# 24期の活動(2) 日本学術会議の運営①



○日本学術会議の審議関係経費等の予算執行状況

(1)今年度当初の計画どおりに委員会を開催すると手当、旅費、参考人に対する謝金ともに予算額を超過し、支払不可能の場合が生じる。

(2)今年度予算内での執行を可能とするため、今後の会議開催数の削減の可否に係る調査を実施中。

(3)会議開催数の削減とともに、ビデオ会議やメール審議の活用、複数委員会の同日・連日での開催を積極的に取り入れて経費削減に努めていただきたい。



6

# 24期の活動(2)

## 日本学術会議の運営②



### ○特任連携会員の任命について

#### (1)規定を改正し、特任連携会員をより抑制的に運用

①原則、以下の人数を超えないこととする

(ア)分野別委員会関係は、1名

(イ)課題別委員会、幹事会附置委員会、若手アカデミー関係及び機能別委員会に置かれる分科会は、委員数の5分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数

②上記基準では十分な審議をすることが困難な特段の事情がある場合には、幹事会に書面で具体の理由を提出し、承認を得ることを条件に、以下の人数を超えないこと範囲で任命できる

(ア)分野別委員会関係は、2名

(イ)課題別委員会、幹事会附置委員会、若手アカデミー関係及び機能別委員会に置かれる分科会は、委員数の2分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数

(2)特任連携会員の総数は、一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、**抑制的に運用**されていることとされている。

※10月3日現在、この割合は8.3%(一般の連携会員1,880名、特任連携会員171名)

7

# 24期の活動(3)

## 委員会、分科会の新設と活性化



### 1. 科学者委員会

男女共同参画分科会(Gender Summit 10のフォローアップ)

安全保障研究(学術フォーラム開催)

その他、前期より継承(ゲノム編集技術など)

### 2. 科学と社会委員会

政府・産業界連携分科会(提言の発出)

メディア懇談分科会(広報、記者懇談会の検討)

これまでに発出した提言とSDGsとのかかわりをHPに公表

### 3. 若手アカデミー(HPの改善、ロゴの創設、国際ワークショップ)

# 24期の活動(4) 分野横断的な課題への取組



## 1. 審議依頼を受けた課題

- ◆ 環境省  
人口縮小社会における野生動物管理の在り方の検討
- ◆ 文部科学省  
国際リニアコライダー計画の見直し案に関する検討

## 2. 新たに立ち上げた委員会

- ・ フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会
- ・ 防災減災に関する委員会
- ・ 自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会
- ・ 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会
- ・ 認知障害に関する包括的検討委員会



9

# 24期の活動(5) 地方学術会議



地方創生に関する取組を従来より強化するため、平成30年度から「地方学術会議」を開催

今年度は2018年12月に京都市(伝統文化・芸術と科学・学術の出会い)、翌2月に札幌市の2回の開催を予定しており、地区会議において実施内容の検討を進めているところ

平成31年度以降の実施方針については、今後、新たに幹事会附置委員会として設置した「地方学術会議委員会」において検討



10

# 24期の活動(6) 広報活動



## ○定例記者会見、メディアとの懇談会を開催

- 定期的に、審議状況等や今後の活動予定について話題提供。



## ○英語版パンフレットの発行

- 海外の研究者等向けに、特に国際活動に焦点を置いた構成とし、必要とされる情報に絞った内容のパンフレットを発行。



## ○ホームページの改善

- 一般国民等のより多くの人に、学会活動の活動を分かりやすく紹介するため、写真の活用、SDGs関連ページの開設及び委員会の紹介掲載など、現状対応可能な範囲で改善。
- 今後は、モバイル端末への対応を含めた大幅リニューアルを検討。



## ○「学術の動向」への編集協力



11

# 24期の活動(7) 国際会議



## ○共同主催国際会議の開催(平成30年度は8件)

- 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議  
(7月1日～6日@京都)
- 第27回液晶国際会議(7月22日～27日@京都)
- 比較法国際アカデミー第20回国際会議  
(7月22日～28日@福岡)
- 第43回錯体化学国際会議(7月30日～8月4日@仙台)
- 2018年電磁波工学研究の進歩に関する国際会議  
(7月31日～8月5日@富山)
- 国際生産工学アカデミー第68回総会(8月19日～25日@東京)
- 第4回世界社会科学フォーラム(9月25日～28日@福岡)



12

# 24期の活動(8) 喫緊の国際活動



○第18回アジア学術会議の準備(本年12月5~7日、於 日本学術会議)

○持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議2018及びS20

- 平成31年3月6日(水)「海洋生態系への脅威と海洋環境の保全」をテーマに日本学術会議で開催予定



13

## 次の半年に取り組む課題



1. 対話のさらなる推進
2. 重要課題への取り組み
3. 地方学術会議の推進
4. 広報普及活動の推進
5. 国際活動の推進と国際会議の  
主催(アジア学術会議、S20)
6. 日本学術会議70周年

設立70周年として、総会での記念講演等の実施を検討しているが、これを機に、ますます日本学術会議を盛り立てて下さい。



# 日本学術会議總會報告

## 組織運営・ 科学者間の連携

- 1 24期科学者委員会の構成(分科会等の追加)
- 2 科学者委員会附置分科会
- 3 地区会議
- ◆ 若手アカデミー（10月4日若手アカデミー報告）

2018年10月3日  
副会長 三成 美保

### 1 第24期科学者委員会の構成(分科会等の追加)

## 科学者委員会



# 1-1. 学術フォーラム(科学者委員会企画)

日本学術会議主催\*学術フォーラム  
ジェンダー視点が変わる科学・技術の未来  
～GS10フォローアップ～

(司会・進行) 松尾 由賀利 (日本学術会議第二部会長、筑波大学工学部教授)  
開催挨拶 山極 壽一 (日本学術会議会長)、濱口 道成 (国立研究開発法人科学技術振興機構理事長)  
来賓挨拶 武川 恵子 (内閣府男女共同参画局長)、佐野 太 (文部科学省科学技術・学術政策局長)

13:20～14:00 基調講演  
「Gendered Innovations in Medicine, Machine Learning, and Robotics」  
Londa Schiebinger (スタンフォード大学 教授)

14:00～14:40 各種報告  
「ダイバーシティ推進に関する評価手法」 藤井 良一 (日本学術会議第二部会長、大学共同利用研究センターシステム研究機構)  
「女性参画拡大により期待されるイノベーション上の利益」  
行本 陽子 (日本学術会議特任委員、日本アイ・ビー・エム株式会社技術者)  
「日本学術会議の取り組み」 三成 美保 (日本学術会議副会長、第一部会長、筑波大学工学部教授 (研究医学生産医科学))  
「JSTの取り組み」 安孫子 満広 (国立研究開発法人科学技術振興機構ダイバーシティ推進課長)

14:55～15:40 他の団体の取り組みと課題  
「人文社会科学系学会男女共同参画推進連絡会の取り組み」  
井野瀬 久美恵 (日本学術会議委員、早稲田大学学術部長)  
「男女共同参画学協会連絡会(理系)の取り組み及び清水建設の取り組み」  
寺田 宏 (男女共同参画学協会連絡会 委員長、清水建設株式会社建築営業本部部長)  
「LDXLの取り組み」 藤森 義明 (LDXLグループ 代表)

15:45～17:00 パネル討論「多様性の推進が私たちの閉塞感を打破する」  
【パネリスト】 山極 壽一 (日本学術会議会長、第二部会長、京都大学総長)  
濱口 道成 (国立研究開発法人科学技術振興機構理事長)  
高橋 裕子 (日本学術会議委員、津田塾大学学長、早稲田大学教授)  
小林 いずみ (日本学術会議特任委員、ANAホールディングス株式会社)  
三井物産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ(外部客員)

【ファシリテーター】 渡辺 美代子 (日本学術会議副会長、第三部会長、国立研究開発法人科学技術振興機構副理事長)

●日 時:平成30年6月14日(木) 13:00(開場12:30)～17:00  
●場 所:日本学術会議 講堂(東京都港区六本木7-22-34)  
東京メトロ千代田線「乃木坂駅」下車、5分出口(青山公園方面)より徒歩1分  
●申込み:下記申込みフォームより6月13日(水)17時までに申し込みにください。  
<https://form.sca.go.jp/scj/opinion-0067.html> 参加無料、定員200名・先着順  
●問合せ:日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当、電話:03-3403-6285  
●共 催:国立研究開発法人科学技術振興機構 ●後 援:内閣府男女共同参画局・文部科学省

2018年9月22日(土) 13:00～17:00 (12:30開場) (於:日本学術会議講堂)  
(入場無料・事前申し込み必要・定員300名)  
日本学術会議・学術フォーラム

● 総合司会 橋本 伸也 (日本学術会議第一部幹事、第一部会長、関西学院大学文学部教授)  
● 13:00 開会挨拶 武田 洋幸 (日本学術会議第二部幹事、第二部会長、東京大学大学院理学系研究科長・教授)

13:05～14:25 挨拶・報告

趣旨説明 三成 美保 日本学術会議副会長・第一 部会長、筑波大学 工学部・教授 (研究医 生産科医)	会長挨拶 山極 壽一 日本学術会議会長 第二部会長 京都大学総長	軍事的安全保障研究 に関する声明について 杉田 敦 第一・第二部会 長に 関する検討委員会 委員長 日本学術会議 第一・第二部 会 長	アンケートの 分析結果から 佐藤 岩夫 日本学術会議第一 部 第一・第二部会 長、筑波大学 理 学系研究科長
---	--	---	--

14:25～15:10 取り組みの紹介

琉球大学 西田 陸 琉球大学理事 副学長 (研究・企画 担当)	関西大学 吉田 宗弘 関西大学副学長 化学生命工学部教授	日本天文学会 柴田 一成 日本天文学会会 長 京都大学大学院教 授 土居 守 日本天文学会会 長 東京大学大学院教 授
---	---------------------------------------	---

15:20～16:55 パネル・ディスカッション

《司会》 佐藤岩夫 日本学術会議第一 部 第一・第二部 会 長	杉田 敦 第一・安全保 障と 学術に 関する 検討 委員 会 委員 長 日本学術 会議 第一・第二 部 会 長	渡辺芳人 日本学術 会議 第三部 会 長 名古屋大学 教授	杉山進郎 北海道大 学 名誉教 授	千葉紀和 毎日新聞記 者
---	--	--	-------------------------------	--------------------

● 16:55 閉会挨拶 米田 雅子 (日本学術会議第三部幹事、第三部会長、慶應義塾大学先端研究センター特任教授)

◆お申し込み 以下Q&Aからお申し込みください  
<https://form.sca.go.jp/scj/opinion-0067.html>  
◆主催 日本学術会議  
◆会場 日本学術会議講堂 (東京都港区六本木7-22-34)  
◆お問い合わせ 日本学術会議事務局企画課 (03-3403-6295)

軍事的安全保障研究をめぐる現状と課題  
ー日本学術会議アンケート結果をふまえてー

## 学術会議HP

### 科学者委員会 軍事的安全保障の ページ

● <http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/gunjanzen/index.html>

日本学術会議 科学者委員会 軍事的安全保障に関する声明 (2017年3月24日)

日本学術会議は1949年7月創設され、1950年に「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」との声明を、また1967年には同じ文言を含む「軍事目的のための科学研究を行わない声明」を発した経緯には、科学者コミュニティの戦争協力への反省と、再び同様の事態が生じることへの懸念があった。近年、再び学術と軍事が接近しつつある中、われわれは、大学等の研究機関における軍事的安全保障研究、すなわち、軍事的必要性による国家の安全保障に不可欠な研究、学術の自由及び学術の健全な発展と緊密な関係にあることをここに確認し、上記2つの声明を継承する。

科学者コミュニティが追求すべきは、何よりも学術の健全な発展であり、それを通じて社会からの真摯な応答を得ることである。学術研究がとりわけ、防衛の専門家でない同僚の職員が研究室の運営管理を行うなど、政府による研究への介入が著しく、懸念が多い。学術の健全な発展という見地から、むしろ必要なのは、科学者の研究の自主性・自律性、研究成果の公開性が尊重される民主的分野の研究資金の一層の充実である。研究成果は、時に科学者の意思と離れて軍事的に利用され、攻撃的な目的のためにも利用されるため、まずは研究の入り口で研究資金の流出に関する厳密な判断の求められる。大学等の各研究機関は、施設・情報・人的資源の管理責任を有し、国防に開かれた自由な研究・教育環境を維持する責任を負うことから、軍事的安全保障研究と見なされる可能性のある研究について、その必要性を目的、方法、応用の妥当性、比較から技術的・倫理的に厳密な判断を要するべきである。学術会議はこれら、それぞれの学術分野の特性に応じて、ガイドライン等を定まることが求められる。

研究の透明性をめぐっては、学術的価値にもとづいて、科学者コミュニティにおいて一定の議論が形成される必要があり、個々の科学者はもとより、各研究機関、各分野の学協会、そして科学者コミュニティが社会と対峙する場を構成して行われなければならない。科学者を代表する機関としての日本学術会議は、そうした議論に責任を負うべきである。今後引き続き検討を進めて行く。

軍事的安全保障研究に関する声明 (平成29年3月24日理事会決定)  
Statement on Research for Military Security (2017)

【要旨】 戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」との声明 (1950年)  
日本学術会議は、1949年7月、その創立にあたって、これまで日本の科学者がとりこみられた態度について強く反省するとともに、科学文化の国際的発展のためにもとより同様の状況を生じないことを強く希望を表明した。

われわれは、文化国家の建設者として、またまた世界平和の礎として、再び戦争の惨害が再来を恐るべき切迫するときに、さきの声明を実現し、科学者としての態度を示すために、戦争を目的とする科学の研究には、今後絶対に従わないというわれわれの強い決意を表明する。

【要旨】 「軍事目的のための科学研究を行わない声明」 (1967年)  
(以下、一部引用)  
ここに述べたのは、改めて、日本学術会議創立以来の精神を振り返って、真摯な研究のために行われる科学研究的成果が公平に社会に還元されることを強く希望し、戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わないという決意を再声明する。

# 1-2. 特任連携会員の推薦書式

## 選考要件についての説明

	理由説明
氏名	特任連携会員を推薦するにあたり、下記の点を明確にして、理由を説明してください。 ①当該特任連携会員なしでは十分な審議が困難である理由 ②会員、連携会員の中に、同等の専門家がないことについて ③候補者の任期 ④現時点での当該委員会・分科会における特任連携会員の数（比率） ⑤（国際の場合）国際関係団体との関係

注1)添付資料として、①日本学術会議特任連携会員候補者推薦書（様式2）、②委員会、分科会等の委員名簿（様式3）を添付する（国際会議への代表派遣の場合は不要）。

注2) 特任連携会員の総数は一般の連携会員と特任連携会員を合わせた数の10%程度を上限とし、抑制的に運用することとされていることを考慮した上で、理由説明を記載する。

※理由説明のうち、①～④は必須、⑤は該当する場合のみ

※委員構成に占める特任連携会員の割合

（ア）分野別委員会及び同委員会に置かれる分科会等 1名（特段の事情がある場合には、2名）

（イ）幹事会の附置委員会、課題別委員会及びこれらの委員会に置かれる分科会等並びに機能別委員会に置かれる分科会等並びに若手アカデミー及び同アカデミーに置かれる分科会 委員数の5分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数（特段の事情がある場合には、委員数の2分の1に相当する数又は10人のいずれか少ない数）

# 1-3. 学協会

## ■協力学術研究団体

# 2,029団体

 (2018年9月現在)

## ■登録申請書類書式の一部変更

### ■会員・役員女性の比率を明記

# 2. 科学者委員会附置分科会

## 2-1. 男女共同参画分科会

### ■第2回(6・14)

- 学術フォーラム「ジェンダー視点を変える科学・技術の未来～GS10フォローアップ～」について
- 若手アカデミーからの報告
- 公開シンポジウム「ハラスメントを鏡に、日本社会を検証する——なぜまっとうな議論ができないのか？」の開催について

### ■第3回(8・8) メール審議

### ■第4回(8・30)

- アンケート検討小分科会の設置
- シンポジウム「医療界における男女共同参画の推進と課題—医学部入試問題を含めて」(10月26日:学術会議講堂)

ハラスメントを鏡に、日本社会を検証する  
—なぜまっとうな議論ができないのか？

2018年7月27日(金) 13:00~17:00

開催場所 日本学術会議講堂  
東京都港区六本木7-22-34

お申込み 次のアドレスにお名前と所属をお知らせください  
inose@center.konan-u.ac.jp

主催 日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会  
第一分科会(ジェンダー分科会)

プログラム

開会挨拶・趣意表明 13:00-13:10	司会から 13:10-13:40	開会挨拶 13:40-14:00	報告 14:00-14:15	パネリスト 14:15-14:30	コメント 16:15-16:40
渡辺美代子(日本学術会議第二部副部長、京都大学大学院医学研究科国際保健政策学教室助教授)	伊藤公雄(日本学術会議第一部副部長、京都大学名譽教授、京都産業大学現代社会学部客員教授)	種部恭子(日本学術会議第二部副部長、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)	野尻久美恵(日本学術会議第二部副部長、京都大学大学院医学研究科国際保健政策学教室助教授)	桃井眞里子(日本学術会議第二部副部長、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)	野尻久美恵(日本学術会議第二部副部長、京都大学大学院医学研究科国際保健政策学教室助教授)

### (案内) シンポジウム「医療界における男女共同参画の推進と課題—日本学術会議幹事会声明をふまえて」(10月26日)

- ・主催：日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会、日本学術会議第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会
- ・共催：日本医学会連合、日本医師会
- ・日時：平成30年10月26日(金) 13:00~17:30
- ・場所：日本学術会議講堂
- ・開催趣旨：医学部医学系入試における女子受験生の一括減点が発覚し、目下、文科省による全国調査が進められている。公正を期すべき入試において性別に基づく差別的処遇が行われていたという事態の重大さに鑑み、日本学術会議は、2018年9月14日付で幹事会声明「医学部医学系入試試験と教育における公正性の確保を求める日本学術会議幹事会声明—男女共同参画推進の視点から—」を発売した。
- ・本シンポジウムは、幹事会声明をふまえ、現時点での論点を整理し、今後の取り組みの課題を展望するものである。今後、速やかに提言をまとめることを予定している。

### ・プログラム(予定)

- ・【総合司会】熊谷日登美(日本学術会議第二部副部長、日本大学生物資源科学部教授)
- ・【開会挨拶】平井みどり(日本学術会議第二部副部長、第二部生命科学ジェンダー・ダイバーシティ分科会)
- ・【挨拶】岸玲子(日本医学会連合副会長、北海道大学)
- ・【趣旨説明】三成美保(日本学術会議副会長、奈良女子大学副学長)
- ・【基調講演】女性医師問題の原点は医療提供体制の特殊性にある：桃井眞里子(日本学術会議連携会員、社会福祉法人桐生療育双葉会両毛整股療護園・自治医科大学名誉教授)
- ・【報告】医学部入試における女性差別の排除：種部恭子(日本女性医療者連合・女性クリニックWe富山院長)
- ・【報告】臨床の現場から：小西郁夫(京都医療センター院長・日本医学会連合理事)
- ・【報告】医療と社会(ハラスメント風土)：渡辺美代子(日本学術会議副会長、科学技術振興機構副理事)
- ・【報告】調整中
- ・【コメント】理系男女共同参画の取り組みから：野尻久美恵(日本学術会議第三部副部長、大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構・素粒子原子核研究所教授)
- ・【コメント】若手医師から：坂元晴香(内科医・東京大学大学院医学研究科国際保健政策学教室助教)
- ・【コメント】医療現場から：藤野泰平(日本男性看護師会共同代表・株式会社デザインケア代表取締役)
- ・【コメント】医学部における「労働権」の教育：小澤隆一(日本学術会議連携会員・慈恵医科大学教授)
- ・【討論】
- ・パネリスト：桃井眞里子・種部恭子・小西郁夫・渡辺美代子・他1名
- ・司会：名越澄子(日本学術会議第二部副部長、埼玉医科大学総合医療センター消化器・肝臓内科教授)・三成美保
- ・【閉会挨拶】伊藤公雄(日本学術会議第一部副部長、京都大学名誉教授、京都産業大学現代社会学部客員教授)

## 2-2. 学術体制分科会

### ■主な審議事項

■第6期科学技術基本計画への提言

■学術政策に関する提言

■第2回(4・27) 内閣府担当官ヒアリング(大学改革・統合イノベーション戦略等)

■第3回(6・6) 山極会長ヒアリング(大学改革・学術政策全般)

■第4回(9・7) 有識者ヒアリング(ドイツにおける学術と政策の実状)

■各回の説明資料は学術会議HPに掲載

<http://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/gakutai/index.html>

### ■今後の審議予定

■論点整理、提言に向けた具体的事項の検討

## 2-3. 学協会連携分科会

### ■第2回(5・28)

■理学・工学系学協会連絡協議会の意見シート(回答結果)について

■法人化問題小委員会の設置

### ■第3回(7・25)

■学協会へのアンケート(案)の検討

### ■学協会法人化問題検討小分科会

■11月8日シンポジウム「学術を発展させる法人制度に向けた提言—公益法人法10周年」

■提言作成準備

### ■今後の課題

■アンケートの実施(アンケート小分科会)

■ジャーナル問題についての検討

日本学術会議公開シンポジウム

### 学術を発展させる法人制度に向けた提言 ～公益法人法10周年～

日時：2018年11月8日(木) 午後1時30分～5時  
場所：日本学術会議講堂(東京都港区六本木7丁目22番地34号)

主催：日本学術会議 科学者委員会 学協会連携分科会  
日本学術協力財団 学協会運営支援委員会

参加費：無料  
申込み方法：下記申込みフォームよりお申込みください  
<https://ws.formzu.net/fgen/S82071163/>

趣旨  
2018年12月に公益法人法の施行から十年を迎えるにあたり、日本学術会議学協会連携分科会と日本学術協力財団学協会運営支援委員会は、学術をより発展させるために、財団3基準・連携組織体制度・小規模学協会などに関する法人制度見直しへの提言案をまとめた。本シンポジウムでは、提言案を報告するとともに、提言案に関する会場での参加者と懇話会を行い、より良い提言をまとめる。

プログラム

13:30	開会式	石川陽司 (公財) 日本学術協力財団 京政理事
13:40	講演	三城美保 日本学術会議副会長 学協会連携分科会委員長
14:10	講演	原小百合 内閣府 公益認定等委員会委員
14:40	報告	学協体に関する法人制度の見直し、改善等について (座長) 池田駿介 学協会連携分科会 学協会法人化問題検討小委員会委員長 日本学術協力財団 学協会運営支援委員会委員長
15:10	休憩	
15:25	提言案に関する会場との懇話会	
司会	米田雅子 日本学術会議副会長、学協会連携分科会副委員長	
提言担当	池田駿介 学協会法人化問題検討小委員会	
	栗田公一 日本学術会議副会長、慶應義塾大学教授	
	大橋敏行 (一社) 日本教育学会事務局長、学習院女子大学教授	
	小野明彦 生物科学学協会代表	
	小泉 健 (公社) 農業農村工学学会理事	
	杉山 敦 (公社) 空気調和・衛生工学会事務局長	
16:50	総括・閉会挨拶	浅島 誠 (公財) 日本学術協力財団 理事・第20期日本学術会議副会長

問合せ先：日本学術協力財団 学協会運営支援委員会 03-3403-9788 / 日本学術会議 事務局企画課 03-3403-6295

## 2-4. 研究計画・研究資金 検討分科会

- 第3回 (4・2) 大型研究計画マスタープラン策定に関わる課題の整理と方針
  - 5～6月 アンケート実施 (100件ほどの回答)
- 第4回 (6・21) アンケートの処理と取りまとめ方法の検討
- 第5回 (7・10) 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術研究の大型プロジェクトに関する作業部会合同会議
- 第6回 (7・18) 大型研究計画アンケート各項目のまとめと方針への反映
  - マスタープランの策定方針の骨子案の作成→各部の夏季部会で意見聴取
- 第7回 (8・23)
  - 8月30日「貴学術大型研究計画の実施状況の調査のお願い」
- 今後の課題
  - 10～11月に公募方針の公表
  - シンポジウム開催

## 2-5. 学術と教育分科会

- 第2回 (6・4) 委員報告「1990年以降の高等教育の変容:『教育』に着目して」
- 第3回 (9・11) 委員報告「『科学技術政策』と『イノベーション』」
- 今後の課題
  - 地方大学を中心とした大学再編をめぐる政策動向とシンポジウムの開催
  - 専門職教育についての検討(法曹・医学・医療関係・情報・教職)

## 2-6. ゲノム編集技術に関する分科会(新規発足)

### ■第1回分科会(7・2)

- 23期提言・CSTI・文科省・厚労省での検討状況

- 国際的状况

- 関連分科会の検討状況

  - 遺伝子改変作物、いのちとところの各分科会報告

- 第2回ヒトゲノム編集国際サミット@香港について

### ■第2回分科会(9・19)

- 第2回国際サミット派遣について

- ゲノム編集技術応用の最新状況

- ヒト生殖系列細胞ゲノム編集の倫理問題の核心

- 法規制の諸観点—ヨーロッパの議論を参考に

## 3. 地区会議

### ■地区会議の活動

- 科学者との懇談会の開催・学術講演会等の開催・地区会議ニュース等の発行・地域社会の学術の振興に寄与することを目的とする事業など

### ■全7地区会議→順調な取り組み(学術講演会等の実施)

- (1)北海道

- (2)東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)

- (3)関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県)

- (4)中部(富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県)

- (5)近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)

- (6)中国・四国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県、徳島県、香川県、愛媛県、高知県)

- (7)九州・沖縄(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)



報	4
総会	177

# 副会長報告 科学と社会に関する活動報告

2018年4月～2018年9月の活動



2018年10月3日

「政府・社会・国民との関係」担当副会長  
**渡辺美代子**

1

## 科学と社会委員会と分科会の活動

委員会（委員長：渡辺美代子）

- ・第23期提言とSDGsとの関係づけ→学術会議HPで紹介（日英）
- ・アジア学術会議におけるセッション企画

企画分科会（委員長：渡辺美代子）

- ・若手アカデミー、科学者委員会との連携
- ・日本の展望に続く2020提言の検討（若手アカデミーからの提案をもとに）

市民と科学の対話分科会（委員長：遠藤薫）

- ・サイエンスカフェによる市民との対話  
2017年10～2018年9月：18回実施  
テーマ：遺伝子、自動運転、選挙制度、食、重力波など  
地方開催：11回（大崎（宮城）、松山、竹原（広島）、松江、那覇など）
- ・「科学と市民の対話」のあり方、外部との連携（文科省、未来館）を検討

メディア懇談分科会（委員長：渡辺美代子）

- ・メディア関係者への話題提供のあり方を議論
- ・課題別委員会などの発信要望とメディア関係者要望の抽出

政府・産業界連携分科会（委員長：山極壽一）

- ・大学と産業界の対話から課題の解決策を議論
- ・提言案を作成（大学のあり方、新産学連携、国際的存在意義、人文学中心の戦略）

2

## 広報委員会分科会の活動

### 「学術の動向」編集分科会（委員長：伊藤公雄）

- ・読者層（若手中心）拡大に向けた方策の検討
- ・「学術の動向」企画経営委員会発足予定（日本学術協力財団のもと）  
来年度以降紙面刷新予定  
（若手の声、外部ライターによる連載、提言インパクト追跡などを検討）

### HP編集分科会（委員長：三成美保）

- ・閲覧層（若手中心）拡大に向けた方策の検討
- ・来年度大幅改訂に向け検討  
モバイル端末向けデザイン
- ・今年度の改訂  
画像を増やし視覚に訴える方向

### 国際発信推進分科会（委員長：隠岐さや香）

- ・国際発信では国際情報を中心に発信
- ・英語版パンフレットの企画と作成
- ・英語版ホームページで今後発出する提言のタイトル等英語化の検討  
（科学と社会委員会と連携）
- ・英語版ホームページの企画提案

3

## SDGsと学術 -会員からの意見-

2018/4 総会時部会、科学と社会委員会、幹事会での議論より

### 積極的に進めるべき

- ✓世界共通の課題を学術会議が取り組む必要
- ✓地球規模の課題に取り組む際の共通言語として使用
- ✓研究が社会にとってどういう意味があるかが問われる際、その正当化に使える
- ✓研究者が研究の意義を考え、語るための手段と捉えるべき

### 批判的であるべき

- ✓SDGsであれば誰も文句を言えなくなるような方向を懸念すべき
- ✓政府主導の潮流に単に取り込まれないように注意
- ✓学術が縛られるのは問題

### 提案

- ✓日本らしいもの、日本らしいやり方を提言できるとよい
- ✓17目標に該当しない課題を捨てるべきではないか（芸術、スポーツなど）
- ✓何をすべきかから考え、分野横断で課題設定を考える必要
- ✓社会実装を目指す研究の場合は、物差しとして使えば良い
- ✓これからの提言だけでなく、過去の提言の振り返りを行う必要
- ✓提言作成時にSDGsとの関係を紐付ける



# 学術会議HPにSDGsと提言等との関係を掲載

日本語掲載：5月29日  
英語掲載：9月5日

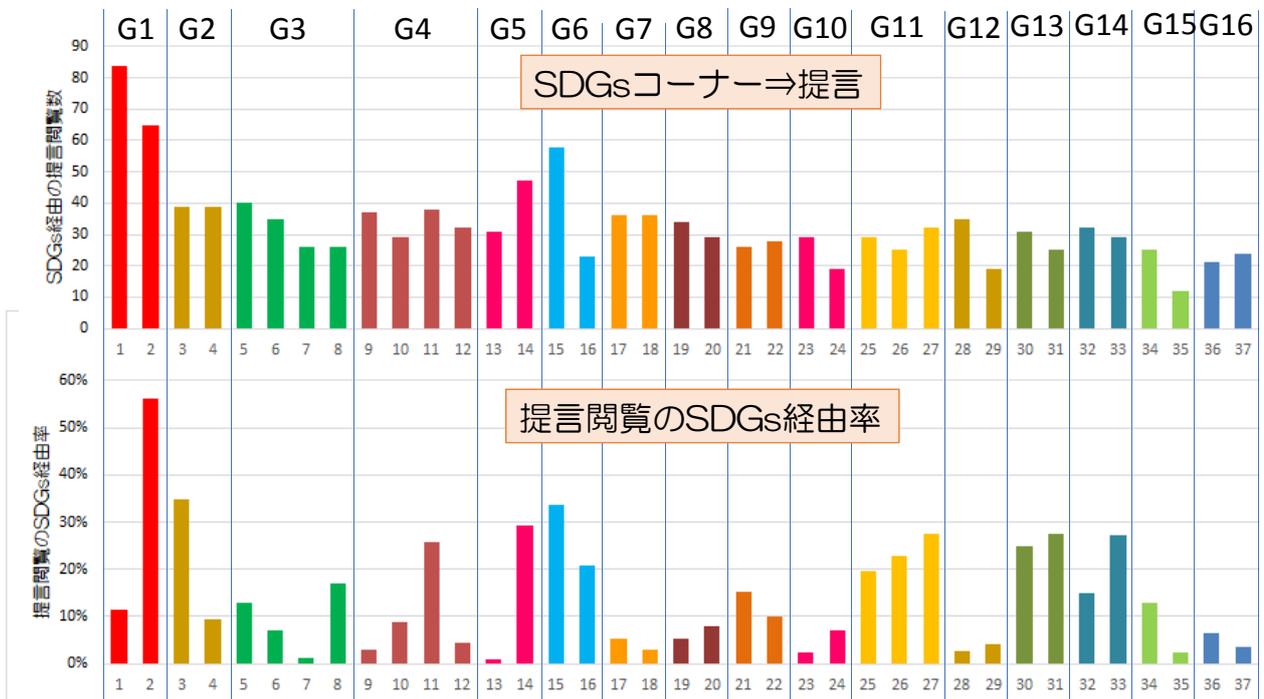
なお、できる限り多様な提言をご紹介するために、1提言につき1日曜を割り当てていますが、ほとんどの提言は複数の目標に関係しています。

【持続可能な開発目標（SDGs）】とは：  
2015年9月に国連総会が決議した「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」が掲げた目標。  
詳細は国連広報センターHPをご覧ください。



## SDGsコーナーの閲覧→提言

2018年5月28日～8月31日のアクセス数  
SDGsコーナー：4,417  
ここから提言：1,225（28%）



# 提言とSDGsの関係をテキストマイニングで分析

## 第三部総合工学委員会による分析

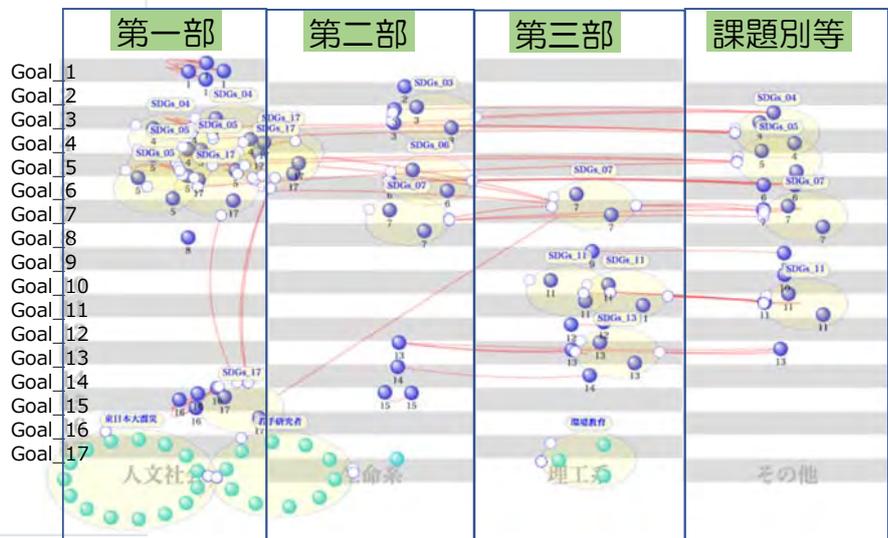
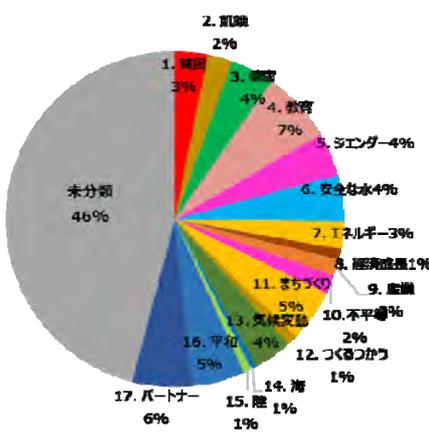
方法：各文書における単語の使用有無をベクトル値に変換

MIMAサーチで提言全文を検索・分析し、SDGsとの関係を可視化

対象：2010年度以降の提言285件

## 各部提言とSDGsの関係

### 提言とSDGsの関係



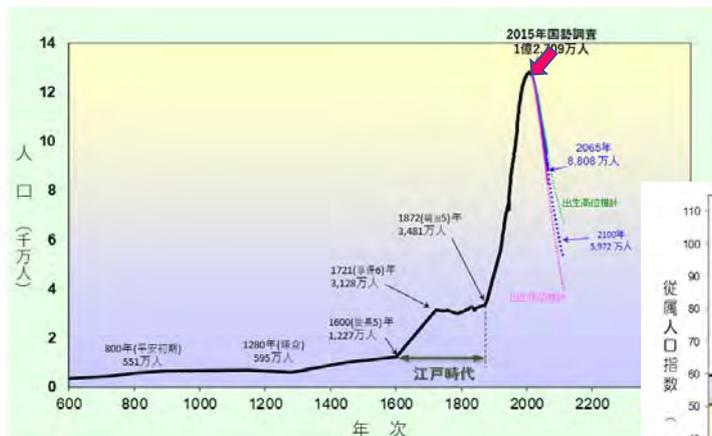
# SDGs日本の達成状況変化

## SDG Index and Dashboards Report 2016-2018 (OECD国のSDGsの17目標に対する達成状況)

	達成済み	達成までほど遠い
2016 34		
2017 35		
2018 35		

# 日本の社会的課題 —人口問題—

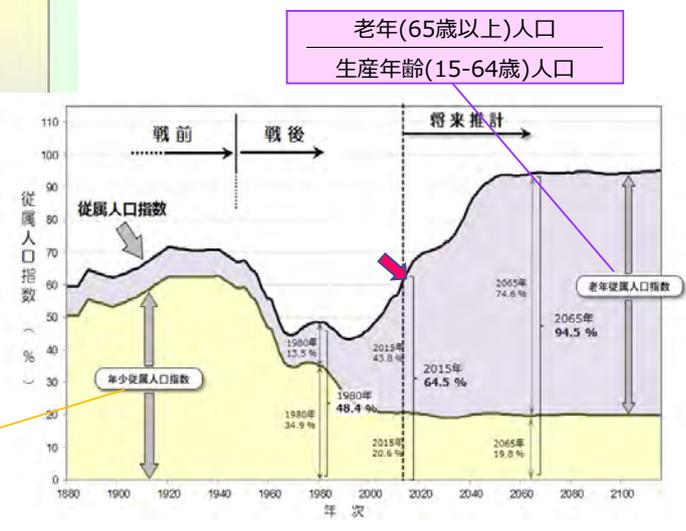
## 日本人口の歴史的推移



国立社会保障・人口問題研究所「人口統計資料集」(1846年までは鬼頭宏「人口から読む日本の歴史」, 1847~1870年 森田優三「人口増加の分析」, 1872~1920年 内閣統計局「明治五年以降我國の人口」, 1920~2015年 総務省統計局「国勢調査」推計人口), 2016~2115年 国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」[死亡中位仮定]

年少(15歳未満)人口  
生産年齢(15-64歳)人口

## 従属人口指数の推移



老年(65歳以上)人口  
生産年齢(15-64歳)人口

旧内閣統計局推計、総務省統計局「国勢調査」推計人口、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」[出生中位・死亡中位推計]

## 人口問題に関する新設課題別委員会

### 人口縮小社会における問題解決のための検討委員会 (委員長: 遠藤薫)

- ・ 少子化と生殖、家族、都市/地方、教育、ロボット、外国人などとの関連
- ・ 本委員会では未解決な社会的な課題に焦点をあてる
- ・ 人口縮小社会の本質的問題の定義 ⇒ 問題解決の検討  
⇒ 人口縮小社会の問題解決のための総合的政策の提案

### 認知障害に関する包括的検討委員会

- ・ 高齢化で増加する認知症のうち軽度認知障害 (MCI) とその予備軍の問題  
従来は臨床医学の立場から病的な段階に対する医学研究に重点
- ・ 工学、看護・保健学、公共政策学、経済学等の専門家を結集し総合的アプローチ
- ・ 社会実装可能な処方箋を提示

### 人口縮小社会における野生動物管理のあり方の検討に関する委員会

(委員長: 鷲谷いづみ)

- ・ 環境省自然環境局からの審議依頼
- ・ 野生動物の生息数激増と分布域拡大、都市への侵入定着、人獣共通感染症リスク
- ・ 絶滅が危惧される希少な野生動物の生息環境の保全と個体群再生の課題
- ・ 行政、社会、及び研究者コミュニティに対し統合的に提案

## 社会的課題に関する分野横断の新設委員会

### 自動車の自動運転の推進と社会的課題に関する委員会（委員長：永井正夫）

- 「工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会」（第20-23期）での技術的な課題検討を基盤
- 本委員会では未解決な社会的課題に焦点をあてる
- 自動運転がもたらす未来社会のモビリティのあり方について  
基礎から出口までを2030年以降を見据えた長期的視点で検討
- 交通事故大幅削減、渋滞緩和、環境負荷低減、高齢者の移動支援、労働力不足への対応、新たなビジネスチャンスの創出などを議論

### 危機対応科学情報発信組織準備委員会（委員長：高橋桂子）

- 東日本大震災対応で始まった課題別委員会「科学者からの自律的な科学情報の発信の在り方検討委員会」（第22期）や各部分科会での議論がもと
- 大規模危機の緊急時に学術会議がどのように対応し、情報発信するのか検討
- そのために平素から備える組織のあり方などを審議
- 危機的重大事態：自然災害、原発事故含む産業災害、医療・健康リスク
- 緊急に学術会議の意見を出す場合に複数の意見を分布も含めて出すことなど

報	5
総会	177

# 日本学術会議 国際活動報告



第177回総会 2018年10月3日  
第24期 国際活動担当副会長 武内 和彦

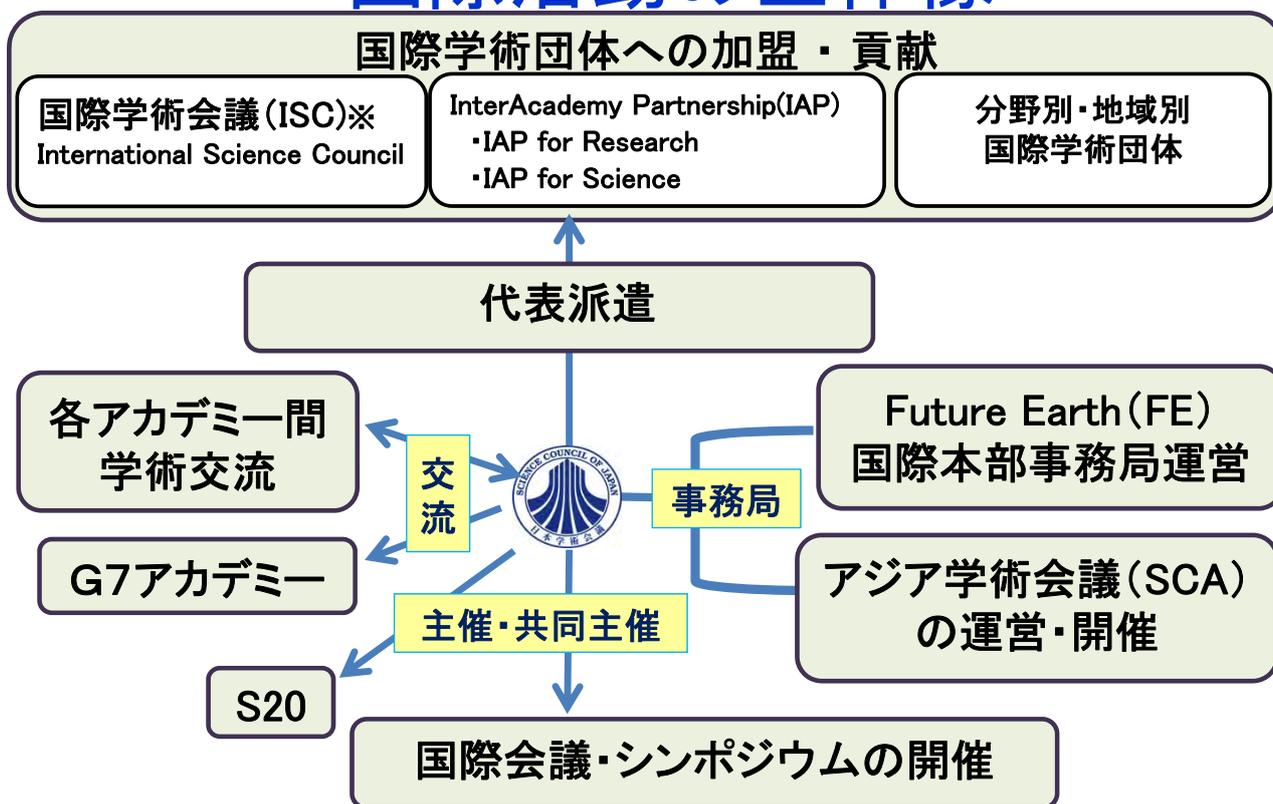


## 第24期の活動方針

- 個別分野の国際学術交流を基盤としつつ、分野横断的な国際活動の展開とネットワークの構築
  - 全学術分野を擁する日本学術会議の優位性を発揮
- SDGsの推進をはじめ、グローバルな課題解決に向けた加入国際学術団体や多様な主体との協働
  - 2018年7月に設立された国際学術会議(ISC)への積極的参画
  - IAP等加入国際学術団体に対するより一層の貢献
  - Future Earthの推進による学術と社会の連携の強化
- アジア地域におけるリーダーシップの発揮
  - アジア学術会議の運営・開催等



# 国際活動の全体像



※国際科学会議 (International Council for Science: ICSU) 及び国際社会科学評議会 (International Social Science Council: ISSC) の統合により、2018年7月発足。

3

## ① 加入国際学術団体等への貢献 (1)

### ● 国際学術会議 (ISC) 設立総会への出席

- 2018年5月 ICSU及びISSCの合併に関する電子投票で正式に統合
- 2018年7月 ISC設立総会 フランス・パリへの出席
- アジア太平洋地域委員会委員長として、植松 光夫 連携会員がGoverning Councilメンバーに就任



## ①加入国際学術団体等への貢献 (2)

- 第4回世界社会科学フォーラム (WSSF2018)
  - ISCが設立後初めて行う大規模国際会議(福岡)
  - 日本学術会議として、極めて重要な会議と位置づけ、平成30年度共同主催国際会議として実施
  - 日本はもとより、アジアで初めての開催となった。今回は、85カ国・地域から約1,000名が参加して、「持続可能な未来のための安全と平等」をテーマに、9月25日から28日の4日間に渡る議論が行われた。
  - 初日には皇太子同妃両殿下の御臨席のもと、開会式及びレセプションが行われ、日本学術会議を代表し、会長及び私が出席した。
  - また、クロージングセッションには白波瀬連携会員が出席し、議論を行い、閉会式ではISC会長とともに私がクロージングスピーチを行った。



5

## ①加入国際学術団体等への貢献 (3)

- IAP (InterAcademy Partnership)の活動
  - IAP for Scienceへの参画
    - 日本学術会議は執行役員として貢献(2期目)
    - IAP 合同総会に出席(2018年9月/ベルン)
    - IAP総会に出席予定(2019年4月/松島<sup>ソンド</sup>)
- その他各学術分野における交流
  - 代表派遣、共同主催などを通じて支援



6



## ②各国アカデミーとの連携・交流(1)

- Gサイエンス学術会議(2018)への対応
    - － カナダ王立協会が主催・とりまとめ
    - － 武内副会長及び2人の専門家が出席 (2018年3月/カナダ・オタワ)
- テーマ1：北極圏
- The Global Arctic : the Sustainability of Communities in the Context of Changing Ocean Systems (地球規模課題としての北極圏～北極海の環境変化に対応した持続可能な社会を目指して～)
- テーマ2：デジタルフューチャー
- Realizing our Digital Future and Shaping its Impact on Knowledge, Industry, and the Workforce (デジタル・フューチャー～デジタル化による社会変革の実現と情報・知識、産業、労働・雇用への影響の展望について～)
- 共同声明のG7政府首脳への手交  
(2018年5月31日、  
安倍総理への声明手交)



7



## ②各国アカデミーとの連携・交流(2)

- 韓国科学技術アカデミー(KAST)との学術協力
  - － 韓国科学技術アカデミー主催会合へ武内副会長を派遣
- Inter-Academy Seoul Science Forum 2018  
(2018年10月23日～10月24日)
- 科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム  
(STSフォーラム)第15回年次総会中、次の会議  
を日本学術会議が主催(予定)
- The 11<sup>th</sup> Academy of Science President's Meeting  
テーマ Threats on Marine Ecosystems and Conservation of Marine Environment  
山極会長、武内副会長が出席(2018年10月8日)



### ③アジア学術会議の運営・開催

- 吉野 博連携会員が事務局長、SCA等分科会が担当
- 第18回大会は11年ぶりに日本開催予定。

「Role of Science for Society: Strategies towards SDGs in Asia (社会のための科学: アジアにおけるSDGsの達成に向けた戦略)」をテーマに、2018年12月5～7日にクローズド形式で開催。

- 加盟機関及び非加盟機関との連携強化を継続  
(2018年2月吉野事務局長シンガポール訪問)
- SCA等分科会がアジア科学アカデミー・科学協会連合(AASSA)への対応を行い、国内委員会の役割を担う。



9

### ④国際学術会議の共同主催並びに後援

#### • 共同主催国際会議の開催

- 第18回国際薬理学・臨床薬理学会議  
(2018年7月1日～6日)
- 第27回液晶国際会議(2018年7月22日～27日)
- 比較法国際アカデミー第20回国際会議  
(2018年7月22日～28日)
- 第43回錯体化学国際会議(2018年7月30日)
- 2018年電磁波工学研究の進歩に関する  
国際会議 (2018年7月31日～8月5日)
- 国際生産工学アカデミー第68回総会  
(2018年8月19日～25日)
- 第4回世界社会科学フォーラム  
(2018年9月25日～28日)



比較法国際アカデミー第20回国際会議における山極会長挨拶

#### • 国際会議の後援

- STSフォーラム(2018年10月7日～9日)を後援



## ⑤代表派遣(1)

- 平成30年度の代表派遣計画を実施中
  - － 平成30年度上半期は20件、26人を派遣  
(総会9件、理事会等11件)
- 若手アカデミー会員の派遣
  - － 2018年5月に若手アカデミー会員をタイで開催された  
Global Young Academy  
総会へ派遣



11



## ⑤代表派遣(2)

- サイエンス20(S20)への派遣
  - － 2018年7月アルゼンチン・ロサリオで開催された  
S20に参加して、「食料と栄養の安全保障」を  
テーマとする共同声明を作成、公表。
  - － 山極会長のビデオメッセージとともに、事務局長  
から2019年S20の日本学術会議開催を表明。

(アルゼンチンS20)

テーマ Food and Nutrition Security :  
Improving Soils and Increasing Productivity



12



## ⑥持続可能な社会のための科学と技術に関する 国際会議2018及びサイエンス20(S20)2019について

### 1. テーマ「海洋生態系への脅威と海洋環境の保全」

(Threats on Marine Ecosystems and Conservation of Marine environment)

2. 概要 近年、マイクロプラスチック汚染等、人間活動に起因する海洋環境の劣化を解決することが、喫緊の課題となっている。本会議では、海洋の持続的な利用に焦点をあてた海洋環境の保全について討議し、議論の成果を声明として取りまとめる。

3. 主催 日本学術会議

4. 日時 2019年3月6日(水)

5. 場所 日本学術会議 講堂ほか



引用:国立研究開発法人海洋研究開発機構

13



## ⑦フューチャー・アースの推進と国際事務局運営

### 【海外】

- 2018年4月「Monsoon Asia Integrated Research for Sustainability (MAIRS)」へ専門家を派遣(中国・北京)
- 2018年5月「Planetary Health Alliance 全体会合」へ専門家を派遣(イギリス・エジンバラ)
- 2019年5月「Governing Council」へ出席予定(スウェーデン・ストックホルム)



### 【国内】

- 2018年9月「International Global Atmospheric Chemistry (IGAC)」(日本・高松)を共催
- 2018年9月「第4回World Social Science Forum2018」(日本・福岡)で2セッション共催

